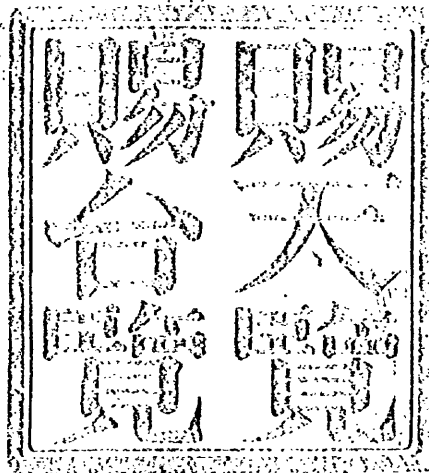


歩兵第三十四聯隊史

1187

此聯隊は予が郷土の聯隊にして加之予が士官候補生として入隊し爾後中隊長(第三中隊)迄在勤せし思出の最も深き隊なり

予の在隊當時の聯隊長は第五代川上才次郎第六代白川義則第七代柴豊彦第八代大島虎毅第十代竹内儀平第十二代磯塚駿一第三代木村益三の各大佐なり 予は大正七年十月木村大佐の時濱松歩兵第六七聯隊中隊長として轉任せり



1189

步兵第三十四聯隊史

全

朝鮮總督元帥伯爵長谷川好道閣下題辭
參謀總長男爵上原勇作閣下題辭
教育總監一戶兵衛閣下題辭
陸軍次官山梨半造閣下序文
故陸軍大將男爵福島安正閣下題辭
故陸軍中將山田隆一閣下序文
步兵第三十四聯隊長木村益三殿序文

步兵第三十四聯隊本部校閱
帝國聯隊史刊行會編纂

1190

注 意

口繪前に白紙を挿入し又巻末に在隊
中記念すべき事柄の記入用紙を挿入
しあり是れ除隊入隊の際、平素指導
を受け、訓練に浴し、又は浴せんと
する上官の記念揮毫或は戦友相互の
深き厚き後日の思出草に資せん爲め
勲業者の用意したるものなれば、携
帶者は此點に十分の注意を拂はれ之
が普用に努められん事を望む。

元帥伯爵長谷川好道題



秋々長
存



1192

百鍊

上原題鍊

下関作原上爵男長總謀参

1193

皇發

兵衛謹題

威揚

陸軍大將一戸兵衛閣下

1194

一死 鴻毛
斷不移

安正題



下関正安島福翁男將大軍陸故

1195